

お客様からの『土作りの疑問?』について

元は田んぼだった所で畑をしているんだけど土が固く締まってしまうのでミニ耕うん機では耕しにくくて...

作物を作ったあとの畝がカチコチに固まって耕うん作業がしにくいんだよなあ...

最初は良かったのに、段々とあまりいい作物が出来なくなって困ってるんだけど...どうして? 肥料を変えた方がいいのかな?

ミニ耕うん機のカタログに載っているようなキレイな耕うん状態にはならないんだけどどうして?

地面が固すぎてミニ耕うん機で耕すと勢いよく走り出したり跳ねたりして怖いわあ...

畑作り・作物の栽培の**主役は『土』**です！機械や肥料はあくまでも補助的な立場です。高機能な機械や高価な肥料を使うことから始める前に、まず**土作りをしっかりと行うことが重要**です。その畑や土壤に問題はないでしょうか？
野菜作りの土壤においては、『**柔らかい土**』『**土壤の通気性**』『**有機質の多い土壤**』『**排水環境**』が重要です。

例えば、粘土質の圃場で土が固くなる事の改善や土壤改良について、例をご紹介します。👍

- ① **籾ガラ**を散布してすき込む(畑の全面に散布)籾ガラは保温効果・保湿効果もあり乾燥防止にも用いられます。
- ② **腐葉土**を混ぜてすき込む。腐葉土はゆっくりと時間をかけて効果が進んでいく土壤に優しい有機質資材です。通気性も良くなり、水はけ効果も期待できます。
但し、完熟しきれていない腐葉土(発酵が不十分)はかえって土や作物に悪影響が出ることがあります。
- ③ **バーク堆肥**は即効的に土を柔らかくするのに有効な資材で水はけ効果も期待できます。堆肥とは言っても肥料としての栄養分はほとんどないので、別に肥料を用いる必要があります。
安価で使いやすい反面、大量生産による商品の完成度にバラツキがあり、腐葉土同様に発酵が不十分なものは土や作物に悪影響が出ることがあります。
また、使用を重ねると今度はバーク(樹皮)の要素が影響して、土の粒子を結合させ土が固くなる事もあるので知っておいて下さい。
- ④ **綿実油粕・牛糞・鶏糞**を用いることで土壤の有機物の増加や通気性が向上し、柔らかい土になる事が期待できますが、これらの有機質肥料を使うだけで十分な土壤改良効果が得られるかというところではありません。腐葉土やバーク堆肥等の植物性堆肥と比べると土壤改良効果は低いですが、牛糞堆肥とバーク堆肥を混ぜた牛糞バーク堆肥もあります。また堆肥は発酵が不十分だと(嫌気発酵)かえって作物に悪影響が出るのでよく選んでから使用してください。
ここで勘違いしやすいのがこれらの有機系肥料を使用することで圃場の保肥力(肥料成分をためる力)が上がるわけではないという事です。数多くあるこれら有機質肥料のそれぞれの特長を理解して使い分けましょう。
- ⑤ **腐植酸資材**を散布し、すき込む事で土壤改良効果に加えて土壤の保肥力(肥料成分をためる力)を高める重要な効果があります。(便利な化学肥料や様々な資材の登場・使用により、近年圃場の保肥力の弱体化が非常に目立つようになりました。)
腐植酸の効果により土壤がしっかり養分を蓄えられる事で、安定した品質と収量が期待できます。
土作りも行い、肥料も厳選して選んでいるのに収穫量が年々落ちていたり品質が向上しないという場合にはこの保肥力が弱っている可能性があります。一度土壤診断(当社でも)を依頼されてみるのもいいと思います。
- ⑥ **土壤のpH(酸度)**を作物に適した状態にする。土壤の酸度調整が悪いと作物に様々な障害が発生します。
酸度計は比較的安価で手に入りますので持っておいても良いでしょう。
強酸性土壤(じゃがいも等)を弱酸性に戻してあげるのに、アルカリ成分(石灰成分)の資材を用いて調整しますが、この石灰資材にもいくつか種類と効き方の違いがあるのでそれぞれの特長をよく踏まえて使用してください。
(石灰・苦土石灰・消石灰・カキ殻等の様々なアルカリ資材、当社では「コーンスター」を販売)
尚、酸性土壤をアルカリ成分で中和して弱酸性に向かわせることは容易ですが、極端にアルカリ性に傾いてしまうと酸性側に戻す事は困難なので注意しましょう。
- ⑦ **排水環境**を整えておく。圃場に水がたまらないようにしておく。